

# 算命学中庸

## 【初年】 49 回目

49 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【人体図の観方】 ①

・【初年】 49 回目【人体図の観方①】 01

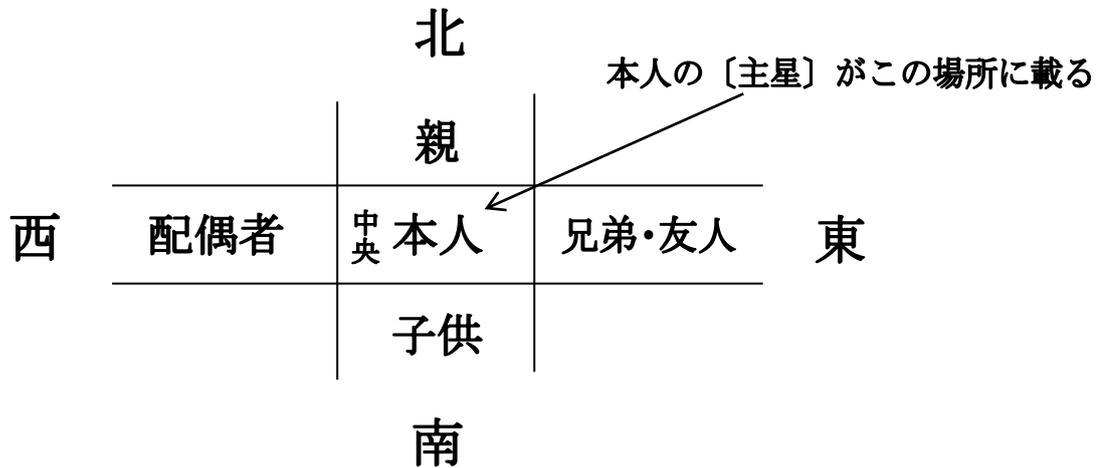
□ 人体図の観方 ① (じんたいずのみかた) 『生剋比』  
しょうこくひ

人体図には、十大主星 5 星と十二大従星 3 星が載りますが、  
『相生』『相剋』『比和』の関係は十大主星だけです。

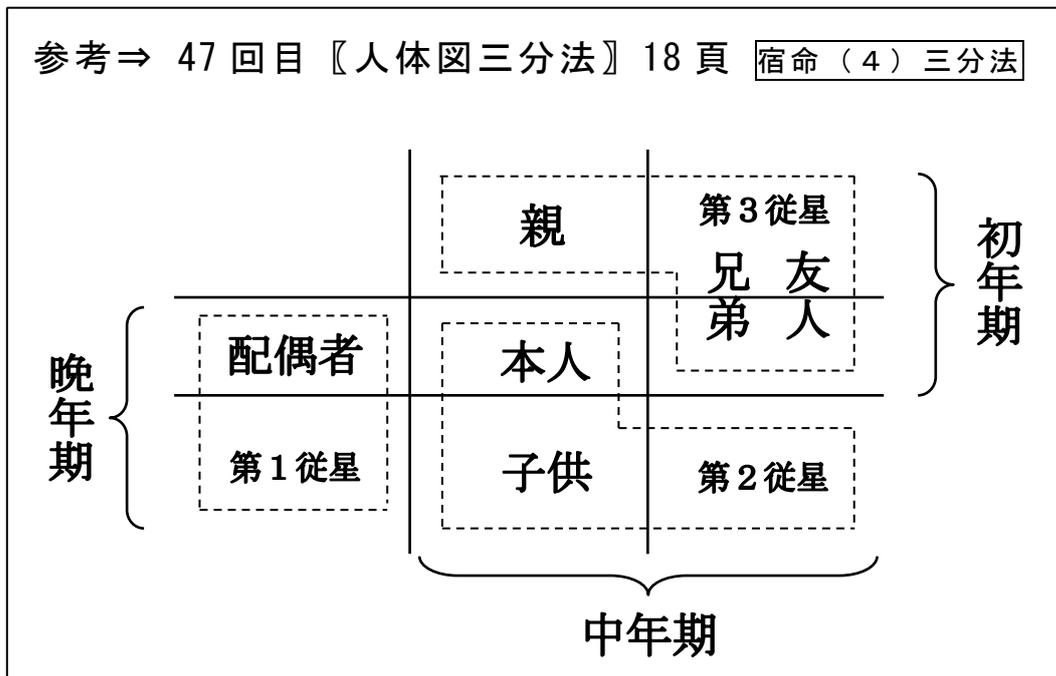
人体図の観方①と②は「主星」と「第一命星」の観方を説明  
します。主星は本人の場所です。第一命星は配偶者・補佐役  
の場所です。☞授業は配偶者の場所として話しを進めます。

☞ 人体図の観方として、人物の場所について述べます。

宿命（1）人体図



中央  
 人体図〔真ん中は本人の場所〕〔本人の上は親の場所〕  
 〔本人の下は子供の場所〕〔向かって左は配偶者の場所〕  
 〔向かって右は兄弟・友人の場所〕です。



♥ A子さんは結婚を考えていますが、どのような男性が自分にふさわ相応しいのかと……考えています。

参考：相応しい [心にかけている]

宿命（2）A子・人体図

	龍高星	第3従星 天堂星
車騎星	司禄星	禄存星
天馳星 第1従星	調舒星	天南星 第2従星

彼女の人体図は、縦に上からりゅうこうせい龍高星・しらくせい司禄星・ちょうじよせい調舒星。

左手はろくぞんせい禄存星。右手はしゃきせい車騎星。

じゅうにだいじゅうせい十二大従星はかた肩からてんどうせい〔天堂星〕てんなんせい〔天南星〕てんそうせい〔天馳星〕。

かた肩からというのは、左肩の第3従星の場所を意味します。

「初年期」親・兄弟・友人・第3従星を意味します。

「中年期」本人・子供・第2従星を意味します。

「晩年期」配偶者・第1従星を意味します。

十大主星のごぎょう五行（もっかどごんすい木火土金水）は覚えましたが……。

すいせい龍高星はほし水性の星です。どせい司禄星・ろくぞんせい禄存星は土性の星です。

かせい調舒星は火性の星です。きんせい車騎星は金性の星です。

星の五行を覚えるとえんかつ占いを円滑にできます。

☞人体図に星の五行（木火土金水）を書くのも方法です。

宿命（3）A子・人体図

	龍高星 <sup>水</sup>	天堂星
金 車騎星	司祿星 <sup>土</sup>	祿存星 <sup>土</sup>
天馳星	調舒星 <sup>火</sup>	天南星

参考：配偶者〔夫婦の一方から見た他方。この身分は婚姻によって取得〕

親の場所・第四命星に載っている龍高星には、離別放浪<sup>りべつほうろう</sup>の星、改革の星、外国の星、智恵<sup>ちえ</sup>の星、偏母<sup>へんぼ</sup>（育ての母）、などの意味がありますから「A子さんの親は改革心がある親です」とか第二命星・子供の場所に〔調舒星〕があるから「淋しがり屋で空想力がある女性です」とか、

第一命星に〔車騎星〕が載っていますから「行動する働き者を求める」とか、

そのように言うことはできますが、星の意味を並べるだけでは占いにならないわけです。

そこで——人体図に載っている十大主星と場所<sup>の</sup>の関係を理解して、読み取り方を解釈<sup>かいしゃく</sup>するとよいでしょう。

参考：行動〔実際に体を動かしてなにかを行うこと〕

参考：解釈〔解き明かすこと〕

☞ A子さんは結婚を考えていて、自分にふさわ相応しい男性との結婚を望んでいるわけですから、彼女の第一命星 (配偶者の場所) にしょうてん しほ焦点を絞って話しを進めます。

ご承知のように、人体図に載っている十大主星にはかくせい各星がもつ意味があります。参考：連関 [かかわりあっている] 星がもつ意味と人体図の場所はれんかん連関しています。

宿命 (4) A子・人体図

	龍高星	天堂星
第一命星 車騎星	司禄星	禄存星
天馳星	調舒星	天南星

第一命星 (配偶者の場所) に **車騎星** があります。

宿命 (5) A子・人体図

	第四命星	
第一命星 <b>夫</b> が座る	主星	第三命星
<small>ふさ</small> 夫座	第二命星	

夫が座る場所 (夫座)

女性の人体図では第一命星を（夫座）<sup>ふざ</sup>とといいます。

男性の人体図では第一命星を（妻座）<sup>さいざ</sup>とといいます。

仮に—— A子さんが結婚すると、相手の男性は強制的に、彼女の人体図の第一命星に座ることになります。

このことはA子さんに限ったことではありません。

どの女性もおなじです。

**宿命（4）A子** をみますと、A子さんの第一命星（夫座）<sup>ふざ</sup>に車騎星<sup>しゃきせい</sup>があります。

車騎星の意味はいくつかありますが、ここでの話しは『行動・働き者』<sup>い み あ</sup> という意味合い<sup>さいよう</sup>を採用します。

参考：車騎星は『行動の星』ともいわれています。

参考：行動〔実際に体を動かしてなにかを行うこと〕

参考：意味合い〔いろいろな事柄を背景として持っている表現の内容〕

採用〔必要なものを取りあげて用いること〕

⇒ 段階的に話しを進めます。

A子さんの第一命星に車騎星しゃきせいがありますから、A子さんが結婚すると、夫になった男性は第一命星（夫座ふざ）に座ることになります。

夫座ふざに車騎星がありますから『車騎星の質しつをもつ男性に縁がある』と書いてある人体図です。

『行動力があって働き者の男性えんと縁がある』

『行動力があって働き者の夫を求めている』

これはA子さんの人体図に書いてあるだけの話です。

参考：質〔本来の性質がそのまま示され、人為・飾りが加えられていない〕

⇒ 彼女は自分に相応ふさわしい男性を探していますから、

宿命（4）A子・人体図の主星と第一命星（配偶者の場所）に

焦点しょうてんを絞ります。

どなたも自分に相応ふさわしい結婚相手を望むといえるでしょう。しかし、本人が望んでいる資質をもつ相手と結婚できるとは決まっていません。このことは男性にも女性にもいえます。

ここではA子さんが主人公ですから、彼女の人体図もとを基にして、仮定の人体図を書いて話しを進めます。

資質〔生まれつきの性質や才能〕 参考：仮定〔仮にそうであると定めること〕

⇒ A子さんの第一命星（夫座）に車騎星がありますから、男性の人体図に「働き者で行動の人」と書いてあれば、A子さんに相応しいといえます。

端的に言えば、男性の人体図の主星に車騎星が載っているならば、彼女の宿命は満足します。参考：端的〔要点だけをはっきり示すさま〕

男性の人体図をみて「働き者で行動の人」と書いてなければ、A子さんの宿命が求める男性とはいえません。なぜなら、彼女の第一命星は車騎星です。

A子さんと結婚して夫となった男性が働き者ではなくて、行動力もないとしたら、その夫は妻となったA子さんにお尻を叩かれながら、無理やり働き者にさせられてしまうといえますし、妻から夫をみると、怠け者に見えてしまうわけです。

このような夫を求めていますから、彼女の心の内面に、だんだん不満が噴出するようにもなります。

そして、つぎのようにもいえます。

A子さんが車騎星のない男性と結婚した場合を想定します。

参考：想定〔ある状況を考え定めること。ある状態を仮定すること〕

わかりやすいように、車騎星のない男性を仮に〔渋谷さん〕とします。

行動の星がない〔渋谷さん〕が、A子さんと結婚すると、彼女の人体図にある車騎星の場所（第一命星・夫の場所）に座ることになります。彼女の夫になった〔渋谷さん〕は〔働き者にさせられてしまう〕ともいえます。

〔渋谷さん〕はイヤでも働かされるようになってしまうということが、運勢のうえで起こります。

☞ 働き者で行動力のある人物の人体図とは、基本的にどのような人体図なのかです。

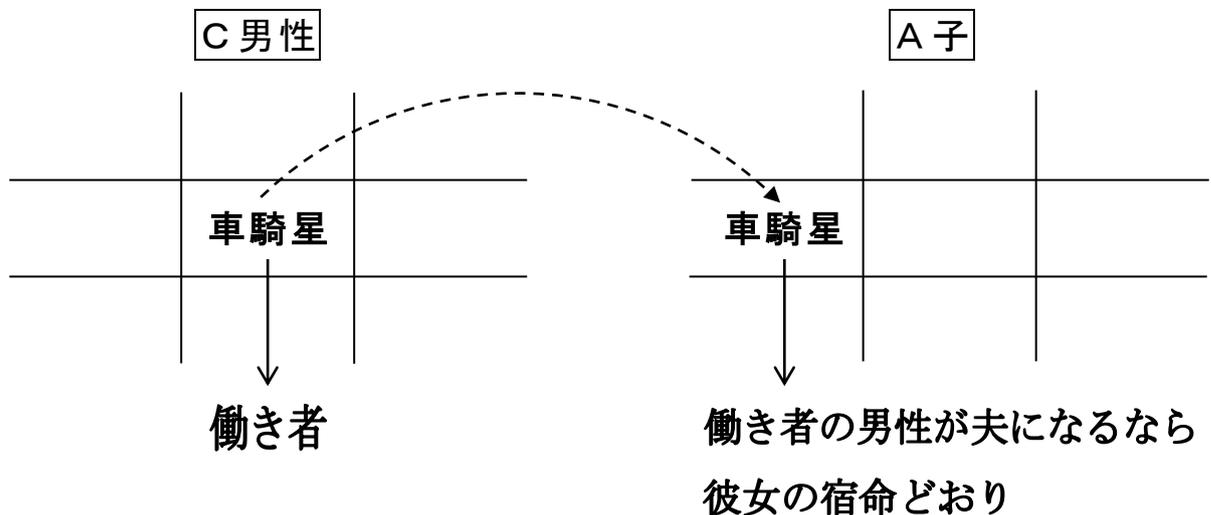
#### 宿命（6）C男性



C男性の主星は車騎星ですから、C男性ならA子さんが求める〔働き者で行動の人〕に適合します。

そこで、男性の人体図とA子さんの人体図を照らし合わせます。 ➡

宿命（7） C男性とA子 2人の人体図を照らし合わせました。



C男性の主星は車騎星です。

A子さんの夫座に車騎星があります。

主星は車騎星のC男性が、A子さんの車騎星の場所に座りますから、彼としては当たり前の感覚です。

先ほど、A子さんと結婚した男性は「夫座に座らされる」といいました。

主星が車騎星で働き者の男性が、車騎星の場所に座るわけですから違和感がないです。

『働き者で行動力』車騎星のC男性が、A子さんの人体図の夫の場所に座ります。

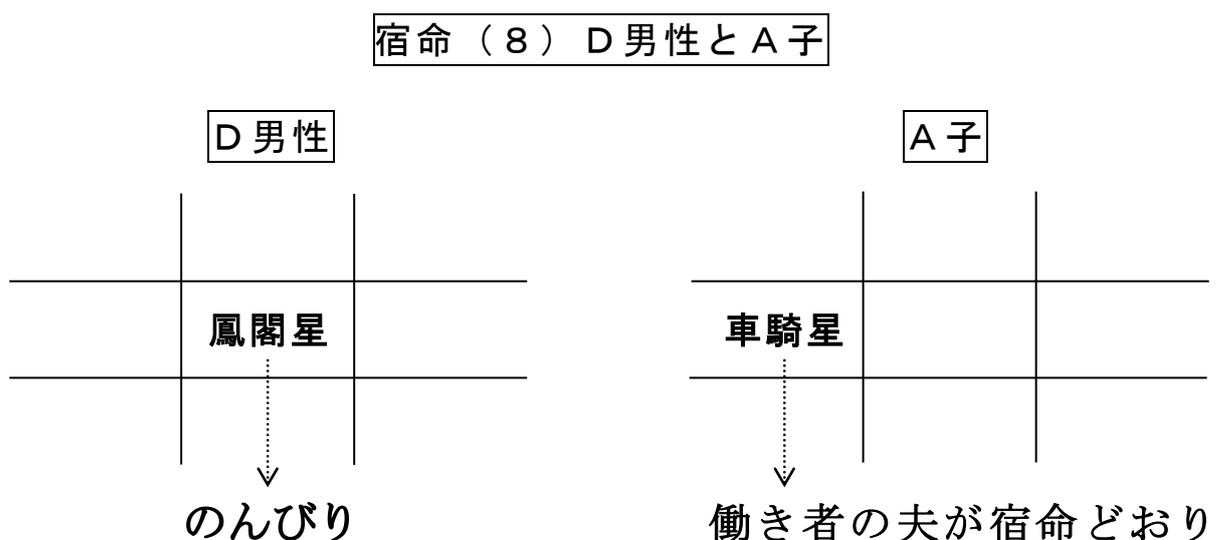
この姿はお互いに満足です。

こういう組み合わせの男性と女性は『この部分においては相性がよいです』ということになります。

この部分というのは、C男性の主星の星とA子さんの第一命星の星。働き者の男性が働き者の場所に座りますから自然です。男性にとって座り心地がよいです。

夫が「じゃあ、仕事で頑張るよ」といえば、A子さんは「あなた頑張ってるね」と、夫の仕事を優先する家庭が築かれていくようになるので、2人とも満足です。

ところが、夫になるD男性の人体図をだしてみると、主星が鳳閣星だとします。



A子さんの第一命星は車騎星です。働き者の夫を望む

と書いてありますが、D男性の主星は鳳閣星ですから  
〔のんびり〕です。

鳳閣星の意味合いも、自然体・のんびり・観察力・伝達・寿命・未来  
などいろいろあります。ここでは「のんびり」を採ります<sup>と</sup>。

この2人が結婚すると、のんびり質のD夫が働き者の  
場所に座ることになります。

結婚した2人はどうなるのかといえ、A子さんが夫  
をもっと働かせようとして、(行動力のある夫になるよう  
に頑張れ)と、彼女が態度であらわせば、それを感じた  
D夫が、妻のために頑張って努力すれば、A子さんは  
満足するでしょう。

しかし、結婚生活を続けるうちに、必ず、夫は不満足  
になるはずで。

D夫の本来の質は鳳閣星ですが、A子さんと結婚した  
ために、彼女が求める車騎星の夫を演じなければなら  
ないとすれば、D夫は不満足でストレスを感じます。

あるいは、鳳閣星をもつ夫が、「仕事はマイペースでや  
るのがいい」と、その姿を続ければD夫は満足ですが、  
A子さんは不満です。

- ・ D夫が車騎星の質を無理して出せば、A子さんは満足しますが、D夫は不満足です。
- ・ D夫が本来の鳳閣星の質を変えなければ、D夫は満足しますが、A子さんは不満足です。

行動力のある人が好きなのに、D夫がいつものんびりしていると、A子さんが不満足になります。

D夫はのんびりと自然体で過ごしたいのに、行動力を求められると不満足になります。

このような2人の姿があるわけです。

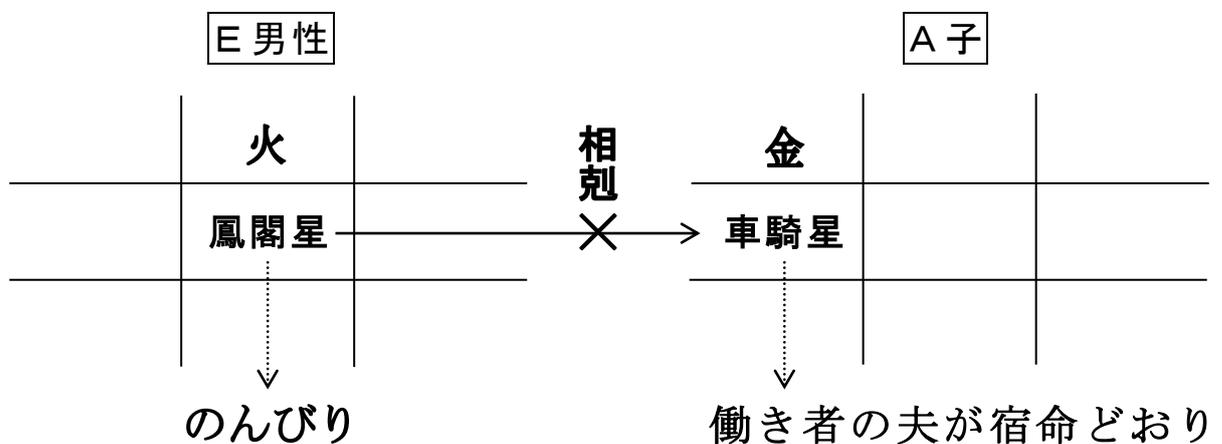
⇒ もう少し明確に、二人の相性<sup>あいしょう</sup>を判断する基準として、『相生』<sup>そうしょう</sup>『相剋』<sup>そうこく</sup>『比和』<sup>ひわ</sup>の関係をつかいます。

いくつか人体図<sup>れい</sup>を例に話しを進めます。 ➡

ここでは鳳閣星と車騎星に五行（木火土金水）を付記して考えます。

鳳閣星は火性、車騎星は金性、この関係は『相剋』<sup>そうこく</sup>です。

宿命（9）E男性とA子 この関係は相性<sup>あいしょう</sup>が悪いです。



男生の主星・鳳閣星が、A子さんの第一命星・車騎星

を（火→×金）と相剋関係になっています。

火炎<sup>かえん</sup>が刃物などの金物<sup>ようかい</sup>を熔解<sup>すがた</sup>する姿です。

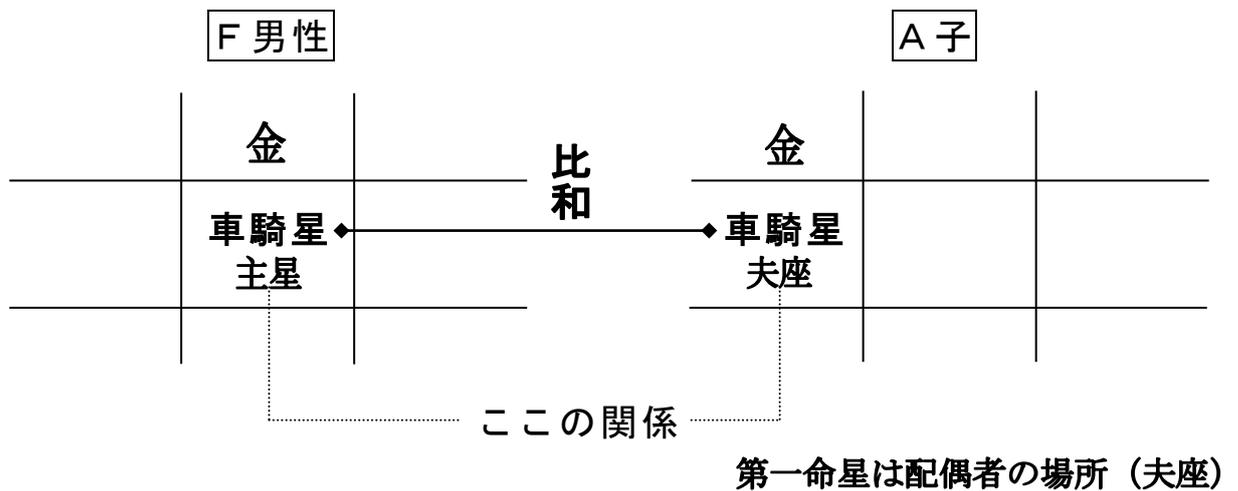
火性と金性は相剋で反<sup>そ</sup>りが悪いです。

ここでの観方<sup>みかた</sup>は（相剋<sup>あいしょう</sup>になっているから相性が悪い）

（比和だから相性がよい）そのように観ます。

参考：反り〔気質が違っているため、仲がうまくゆかない〕

宿命（10）F男性とA子 この関係は相性がよいです。『比和』



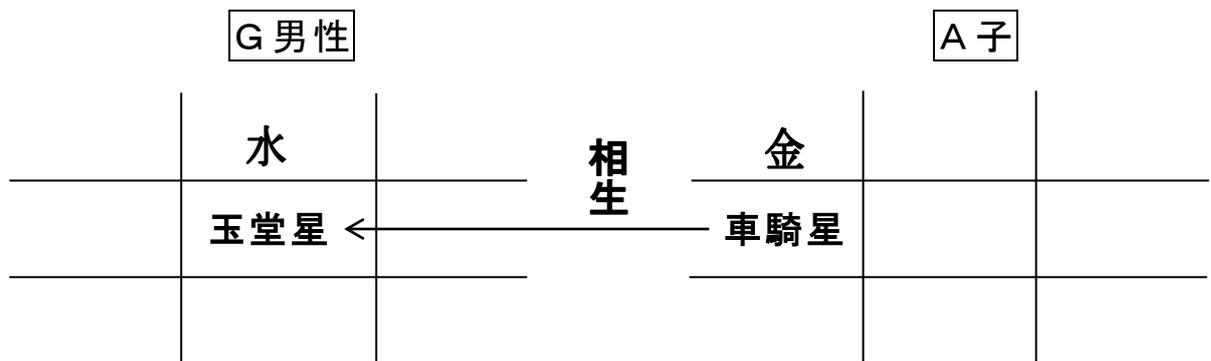
男性の主星は車騎星です。

A子さんの配偶者の場所も車騎星です。

この関係は〔相手の主星・車騎星〕と〔A子さんの配偶者の場所の星・車騎星〕が『比和』の関係ですから【○】です。

『比和の関係』相性はよいです。

宿命（11） G男性とA子 この関係はふつうです。『相生』



男性の主星は玉堂星です。

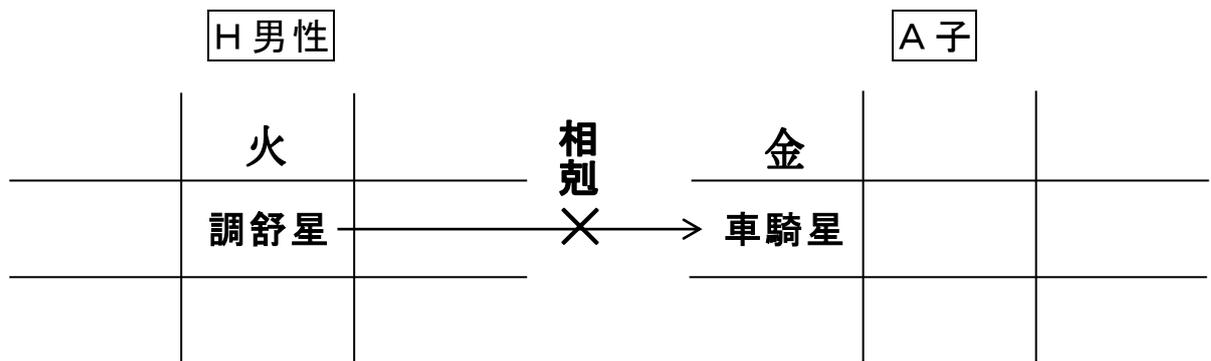
A子さんの配偶者の場所は車騎星です。

ここの関係は〔相手の主星・玉堂星〕を〔A子さんの配偶者の場所にある星・車騎星〕が（金→水）と生じています。

<sup>そうしょう</sup>『相生』になっていますから {△} です。

<sup>そうしょう</sup>『相生関係』 <sup>あいしょう</sup>相性はふつうです。

宿命（12）H男性とA子 この関係は悪いです。『相剋』



男性の主星は調舒星です。

A子さんの配偶者の場所は車騎星です。

ここの関係は〔相手の主星・調舒星〕が〔A子さんの配偶者の場所にある星・車騎星〕を（火→×金）と剋しています。

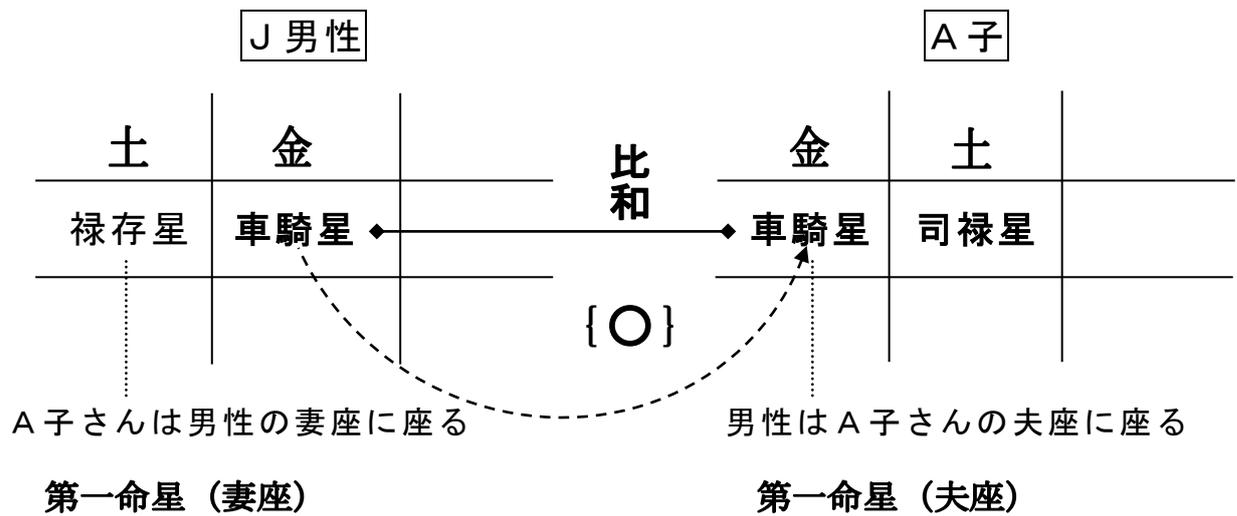
『<sup>そうこく</sup>相剋』になっていますから {×} です。

『<sup>そうこく</sup>相剋<sup>あいしょう</sup>関係』相性は悪いです。

男性の主星と自分の夫の場所を比べて比和なら {○} です。

相生なら {△} です。 相剋なら {×} です。

宿命（13）J男性とA子



彼女の第一命星（夫座）に車騎星があります。

男性の主星は車騎星です。

主星が車騎星の男性が、A子さんの夫座にある車騎星のところに座ります。

〔J男性の車騎星が、A子さんの車騎星がある夫座に座りますから違和感がないです〕 参考：適合〔うまくあてはまること〕

男性側の相性は <sup>がわ</sup> <sup>あいしょう</sup> {○} です。『比和』です。

〔A子さんの司禄星がJ男性の禄存星がある妻座に座ります。

陰陽の違いはありますが、どちらもやさしい星です。〕

A子さん側の相性も {○} です。『比和』です。

宿命(13) J男性とA子 お互いに『比和』で一致します。

お互いに<sup>あいしょう</sup>相性はよいです。

☞ A子さんは働き者で行動力のある夫を求めています。

男性の主星は車騎星・行動の星です。彼女に<sup>ふさわ</sup>相応しいです。

☞ 男性はやさしい妻を求めています。A子さんの主星は司禄星です。司禄星は堅実な妻の星です。男性に相応しいです。

☞ <sup>じゅうだいしゅせい</sup>十大主星の<sup>いんよう</sup>陰陽が違っていても {○} です。

星の陰陽というのは〔車騎星は陽の星〕〔牽牛星は陰の星〕です。

十大主星は（陽の星）と（陰の星）があります。

<sup>よう ほし ようせい</sup>陽の星を陽星といいます。 <sup>いん ほし いんせい</sup>陰の星を陰星といいます。

〔貫索星は陽星〕〔石門星は陰星〕 <sup>ごぎょう もくせい</sup>五行は木性です。

〔鳳閣星は陽星〕〔調舒星は陰星〕 <sup>かせい</sup>五行は火性です。

〔禄存星は陽星〕〔司禄星は陰星〕 <sup>どせい</sup>五行は土性です。

〔車騎星は陽星〕〔牽牛星は陰星〕 <sup>きんせい</sup>五行は金性です。

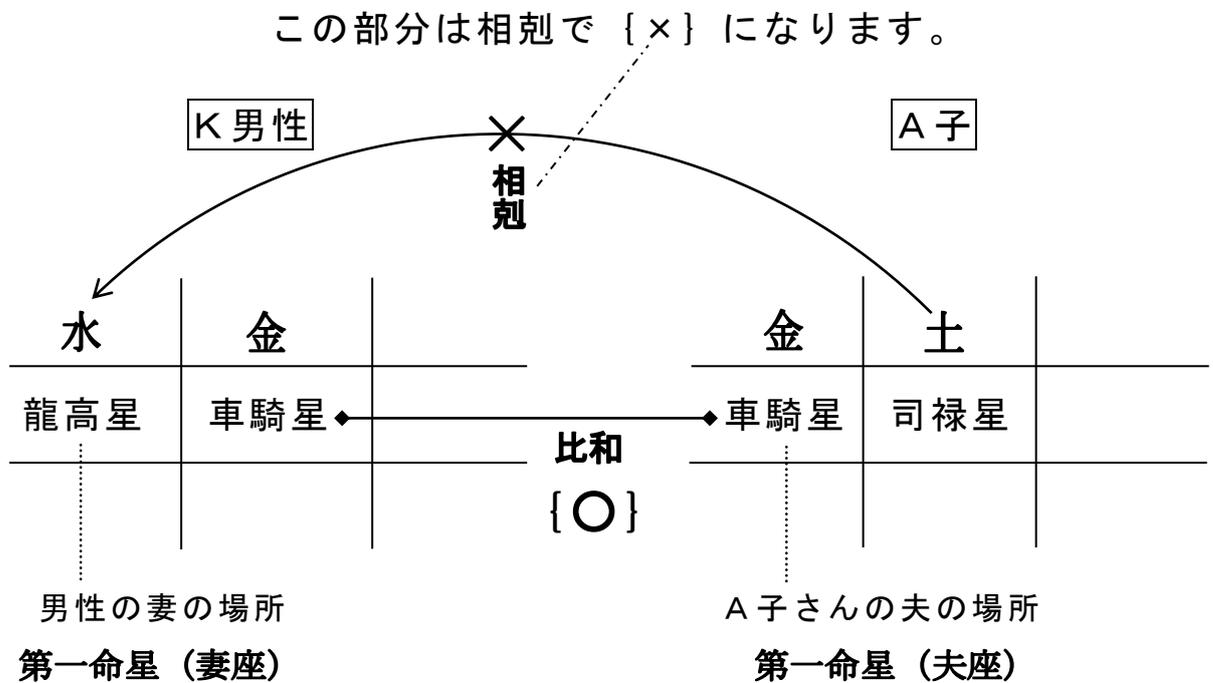
〔龍高星は陽星〕〔玉堂星は陰星〕 <sup>すいせい</sup>五行は水性です。

A子さんの主星は司禄星・陰の土性です。

男性の第一命星は禄存星です。禄存星は陽の土性です。

十大主星の陰陽は異なりますが {○} です。

宿命（14）K男性とA子 {×} と {○}



A子さんの主星は司禄星です。

彼女が結婚して妻になると、A子さんはK男性の人体図の第一命星（<sup>さいざ</sup>妻座）に座ることになります。

主星が司禄星のA子さんが、龍高星の椅子に座らされます。

司禄星の五行は土性、龍高星の五行は水性ですから、

（<sup>ど</sup>土→<sup>こくすい</sup>×水）と相剋関係になります。

A子さんが男性をやっつける関係『相剋』です。

ここの部分は（土→×水）と相剋ですから {×} です。

☞ A子さんがK男性と結婚した場合を考えます。

**宿命（14）K男性とA子** をみますと、A子さんの主星は司禄星ですから、A子さん自身が司禄星（土性）です。K男性の人体図の第一命星（妻座）に龍高星（五行水性）があります。龍高星は改革心をもつ知恵の星ですから、男性は〔**智恵をつかって、なにかを改革するような女性**〕をこの好むといえます。妻座に龍高星がありますから、K男性の人体図は〔**そのような女性を妻にしたい**〕と書いてあります。ところが、A子さんの主星は司禄星ですから、家庭的な質をもつ堅実な星です。

2人の結婚を**想定**すると、K男性は『家庭的でありがたいが堅実過ぎて“つまらない”とおもうわけです。このように『相剋』の部分が【×】で、『比和』の部分が【○】ですからふつうです。**相性**はふつうです。このようなご夫婦は多々おられます。

参考：堅実〔考え方、やり方がしっかりしていてあぶなげのないさま〕

参考：想定〔ある状況を考え定めること。ある状態を仮定すること〕

参考：改革〔不完全なところをあらためて、よりよいものにすること〕

参考：好む〔数ある対象物の中から性分にあうものを望む〕

人間関係は——相手のすべてが好きとか、全部が嫌い、そのようなこともあるでしょう。

または〔この部分は気に入っている〕けど〔相手のこういう部分は気に入らない〕とか、そのような一面はどなたにもあるかとおもえます。

☞ ここまでは。

女性側の人体図の主星と第一命星（配偶者の場所・夫座<sup>ふざ</sup>）に焦点をあてて観てきました。おなじように、

男性側の人体図の主星と第一命星（配偶者の場所・妻座<sup>さいざ</sup>）に焦点をあてて観てきました。

この観方はおなじような手順<sup>てじゆん</sup>ですが、さまざまな人物に当てはめることができます。

参考：手順〔ものごとをする順序。だんどり〕

〔たとえば〕自分と親の人体図を出してみても……、  
『自分と親はこの部分の相性はどのようだとか』  
『自分の人体図の子供の場所（第二命星）』そして  
『子供の人体図の親の場所（第四命星）』を比べて観たとき、自分の人体図では子供の場所に調舒星が載って

いるけど、実際に子供が生まれたら〔主星が玉堂星の子供だった〕とか、〔主星が車騎星の子供が生まれた〕とか、さまざまな姿があります。

また、自分に何人か子供がいれば、その子供のなかでも、『この子と気が合うけど、この子と気が合わない』  
そういう相性<sup>あいしょう</sup>の違いも出てくるはずです。

☞ A子さんと男性ということで、『相生』<sup>そうしょう</sup>『相剋』<sup>そうこく</sup>『比和』<sup>ひわ</sup>を観てきました。

重複する箇所もありますが、再度『相生』『相剋』『比和』の関係を観ていきます。

どなたも、自分の宿命内にある『相生』『相剋』『比和』の関係は重要です。

『相生』『相剋』『比和』の関係は、自分と〔親〕〔兄弟〕〔配偶者〕〔子供〕〔友人〕のあいだにも存在します。

自分と対象人物との関係がわかれば、占いに活用できるわけです。

① 『相剋』 やっつけるような関係

『相剋』 やっつけるような関係です。

宿命（1）娘さん

第四命星は親の場所



仮定の話として、自分の 10 代の娘さんとの親子関係の話しとして進めます。

娘さんの生年月日から人体図を出します。

ここでは本人と親の場所を焦点に絞ります。

主星に貫索星をもつ子供が、親の場所にある司禄星を（土→×水）と相剋しています。

主星と親の場所の相剋は〔親をやっつける関係〕といえます。『お子さんは親を厳しい眼で見えています』とか表現はさまざまですが……やわらかく表現するとよいでしょう。参考：厳しい〔少しの妥協もゆるさないさま〕

**宿命（1）娘さん** ここでの『相剋』は、主星と第四命星

（親の場所）に載<sup>の</sup>っている星だけに焦点を当てていますが、実際の鑑定は依頼者が『子供との関係について、なにを知りたいのか？』をお訊きして、お知りになりたい部分に焦点を当てて観ることになります。

そして、依頼人の質問に答えていくわけです。

その際——娘さんの生年月日はもちろんのこと、両親の生年月日もお訊きして宿命を出すことになります。

その宿命は「陰占の宿命」と「人体図（陽占の宿命）」の2つです。

☞ すこし話しが逸<sup>そ</sup>れました。話しをもどします。

『相剋』の関係は「お互いに反発する」そのように考えるとよいでしょう。

『相剋』お互いに反発する。

**宿命（1）娘さん** の場合、人体図は（土→×水）と子供が親を相剋する姿ですから、子供が『親に反発する質をもっている』といえますし、『<sup>きび</sup>厳しい目で親を見ている』とか、『親に対して強く接する』とか、そのようにもいえます。

『相生』『相剋』『比和』にはさまざまな観方があります。  
1+1=2になれば占いは簡単ですが、「十干」と（十二支）の  
組み合わせによって、宿命はひとり一人異なります。

☞ 『相剋』を抜粋<sup>ばっすい</sup>して考えます。

「相手に反発したり」「厳しく接したりする」というこ  
とは、『相手を言葉でののしる』『苛<sup>いじ</sup>めてひどい目に遭  
わせる』とか、そのように思い込みやすいわけですが、  
『相剋<sup>そうこく</sup>だから相手と仲<sup>なか</sup>が悪い』『相生<sup>そうしょう</sup>だと仲がよい』  
そのような意味とは異なります。

仲が悪い。仲がよい。それとは別な話です。

10代の娘さんは、親とすごく仲良くて、親思いかもし  
れないのです。（親思いなのに親に反発して、親に厳し  
く接する）これはどのような様相<sup>ようそう</sup>なのかといえば――  
「親の間違<sup>うなが</sup>いを指摘して注意を促す」とかの意味もあ  
るわけです。

親にかぎらず、相手に厳<sup>きび</sup>しく接して、相手の欠点<sup>なお</sup>を直す。  
そういうことにもつながるわけです。

参考：様相〔ありさま。状態。すがた〕

「たとえば」「お母さんここはダメじゃないの」とか、「お父さんその言い方を改めないとダメ」とか、親に対して、文句が多くなったりするわけです。

「お母さん、もっと頑張ってリハビリしないとダメよ」ということで、お母さんの弱点を指摘してあげるとかです。親を鍛<sup>きた</sup>えてあげることにつながるはずですよ。その意味で、『相剋』は相手を鍛えます。

### 『相剋』相手を鍛える。

ときには、相手を励<sup>はげ</sup>ましたりすることもあるのです。いつも「お母さんここはこうしないとダメじゃないの」とか、「この時間に遅れたら一緒に行かないわよ」とか、いつも親に対して、注意や文句をつけている子供がいるとしても、「その子供が親を嫌っている」とは言い切れません。

むしろ、親に対して何かにつけて厳<sup>きび</sup>しいことをいうのは、“親思い”だからそうなるのかもしれないのです。

『相剋』が悪い関係とは決まっていません。

『相剋』に〔よいとか〕〔悪いとか〕はないのです。

まずは〔よい〕〔わるい〕をのぞいて考えてください。

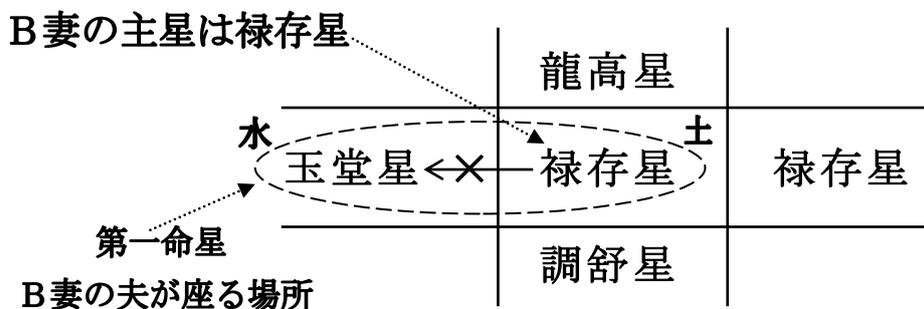
親に反発したりするなかには「鍛えよう」「正そう」とする想いが横たわっているとも考えられるわけです。そのような関係とさせて頂くとよいでしょう。

『相剋』の関係に付け加えることとして、特に夫婦の場合の相剋は「愛情」ともいえます。

特に夫婦の場合の『相剋』は愛情ともいえます。

少し激しい感情が夫婦のあいだに芽生えます。

**宿命（2） B妻・相剋**



B妻の主星は禄存星ろくぞんせいです。禄存星は五行土性どせいです。

配偶者の場所は玉堂星ぎょくどうせいです。玉堂星の五行は（水性すいせい）です。

人体図の本人と配偶者（夫）の関係は、（土→×水）と相剋関係になります。このとき夫婦の場合、少し激しい感情のうごきが生じます。内面の心の状態が相剋の刺激に応じて現れるともいえます。

星と星のぶつかり合いは【二星相関変化法】にできました。

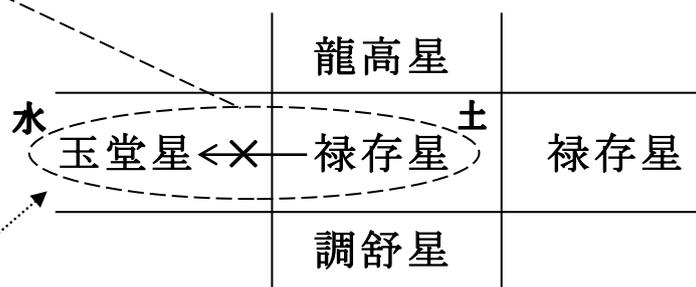
【二星相関変化法】の勉強のときに、『相剋』の関係になっていると〔星同士がぶつかり合って葛藤が大きく膨らみます〕と出てきました。

『相剋』は星と星がぶつかります。そこにちょっと強い感情が芽生えます。夫婦の場合「愛情」という姿で外に現れるようになります。参考：芽生え〔状態が起り始める〕

このとき——人体図は相剋の矢印の向きが重要になります。

宿命（3）B妻・相剋

矢印の向きは主星が第一命星を剋している



夫が座る場所に玉堂星があります。

B妻の主星・禄存星が配偶者の玉堂星を剋しています。

自分が配偶者を（土→×水）と『相剋』している関係は〔自分が相手を愛したい〕という気持ちになります。

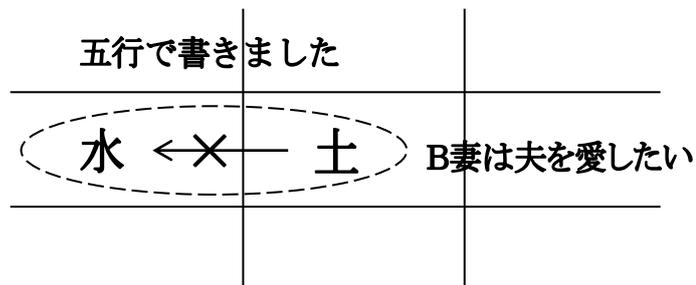
**宿命（4） B妻・相剋**

禄存星が配偶者の玉堂星を愛したいのです。

〔主星が第一命星を剋<sup>こく</sup>したい〕のです。

〔主星が相手を愛したい〕のです。

**宿命（4） B妻・相剋**



妻は夫を愛したい（剋<sup>こく</sup>したい）のです。

**宿命（2） B妻** **宿命（3） B妻** **宿命（4） B妻** の『相剋』

は、〔相手から愛されるのではなくて、自分から相手を愛したい〕のです。

自分から積極的に相手に愛情を<sup>そそ</sup>注ぎたい（愛情を与えたい）のです。それなのに、逆に相手から強く愛情を迫られたりすると、嫌<sup>いや</sup>になってしまう傾向をもちます。

自分から相手に言い寄りたいのに、相手から言い寄られると、かえって<sup>さ</sup>冷めてしまうのです。

参考：かえって〔なんらかの効果を期待して行ったことが、反対の結果をまねいてしまう様子〕

☞ 矢印の向きによって、愛情も2種類あるわけです。

**宿命（5）人体図・男性** 五行はなんでも構いませんが、

ここでは、金性と火性に<sup>せってい</sup>設定しました。

『相剋』の矢印の向きを逆にした人体図です。

(火<sup>か</sup>→<sup>こく</sup>×<sup>きん</sup>金) と主星（自分）が剋される姿です。

男性は「相手から愛されたい・剋してもらいたい」と書いてあります。 参考：設定「ある仮定や条件を設けること」

**宿命（5）人体図・男性**



人体図の（相剋の矢印の向き）は、相手から<sup>きび</sup>厳しくされたいのです。「相手から剋されたい」この姿を愛情と考えれば、「相手から愛されたい」と書いてあります。

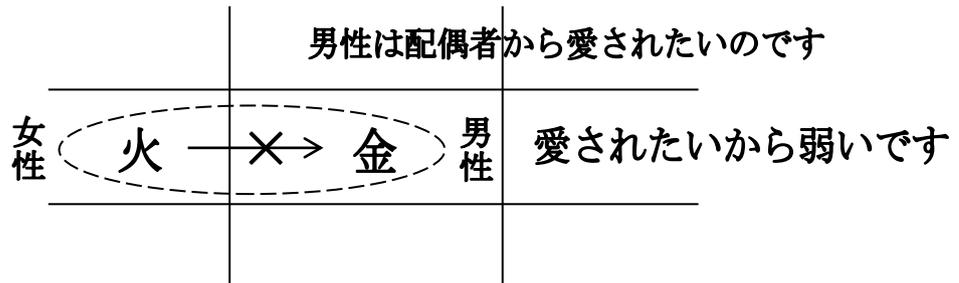
この男性は相手から愛されたいのです。

自分のほうから、相手の人を愛するのではなくて……

相手の人から自分を愛してもらいたいのです。

このような人体図の人は「相手から強く求められる」  
「相手から強く言い寄られる」と弱いです。

宿命（5）人体図・男性



「恋愛」では「自分のほうから、相手に言い寄っていくのか……」「相手から言い寄られるのか……」それは人体図の星を<sup>み</sup>観てから、決めたほうがよいのです。なぜかといえば「この人に強く言い寄ると、この人は言い寄る相手を嫌になって、わずらわしくなる」とか、「この人には強く言い寄ったほうがなびきます」とか、そういう占いもできるわけです。

「愛している」という言葉にも「自分のほうから相手を愛したい……」「相手のほうから愛されたい……」2種類あるわけです。

「わたしはあなたを愛しています」

そのようにいっても『相手から愛されたい』と想<sup>おも</sup>う人もいます。

そうではなくて『自分のほうから相手を愛したい』と想っている人もいます。

〔矢印の向き〕は「その違い」を意味しています。

人間関係はどなたでも……「相手の全部が好きです」

「全部が嫌いです」そういうこともあるでしょうが、  
『この部分は気に入っているけど……こういうところが嫌い……』とか、さまざまです。

しかし「離婚」となると、「なにもかも嫌いです」

「近くで空気を吸うのも嫌いです」というふうになる人もおられるようです。

算命学に「最悪の相性」というのがあります。

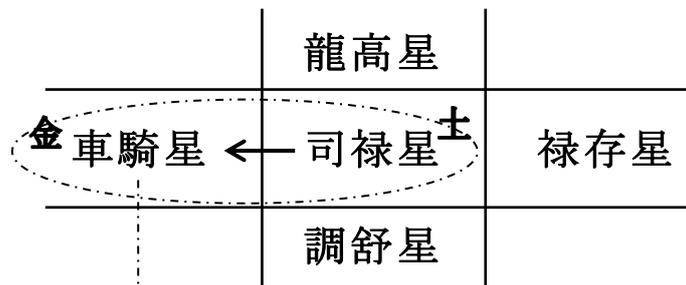
別れるとき「血をみる」ともいいます。

## ② 『相生』 助けるような関係

☞ここではA子さんの人体図をつかいます。参照 04 ページ

『相生』<sup>そうしょう</sup> 助けるような関係。

### 宿命（1）A子人体図・相生



第一命星は配偶者の場所（夫座）

「彼女はどのような男性が自分に相応しいのか……考えています」と書きました。参照 03 ページ もし、A子さんが結婚すると、相手の男性は第一命星・車騎星が載っている場所に座ることになります。

A子さんの主星・<sup>しろくせい</sup>司禄星が<sup>しゃきせい</sup>車騎星を生じていますから  
 （<sup>どしょう</sup>土→<sup>きん</sup>金）と相生の関係です。

彼女が結婚すれば〔配偶者を助ける・夫をささえる〕と書いてあります。

この部分の『相生』は〔A子さんが<sup>ふざ</sup>夫座に<sup>すわ</sup>座る夫を助ける〕そういう意味だと解釈すればよいわけです。

確かに—— A子さんの人体図で矢印の方向を見ると、主星から（土→<sup>どしゅう</sup>金）と第一命星に向かっていますから「彼女は夫を助けて、夫の面倒を見たい」と、人体図に書かれています。そのように人体図を読みますが……、この『相生』の姿はあくまでも彼女の人体図の話です。

☞ 間違えないでください。

A子さんの人体図は「結婚相手を助けて面倒をみる」と書いてあります。

しかし、夫となる男性の人体図には「僕は妻を助けて面倒をみる」と書いてあると決まっています。

男性の人体図をみると「妻にささえてもらいたいと思っていないし、助けてもらうことも望んでいない」と書いてあるかもしれないのです。

そうであれば…… A子さんの思いと、男性のおもいは正反対です。

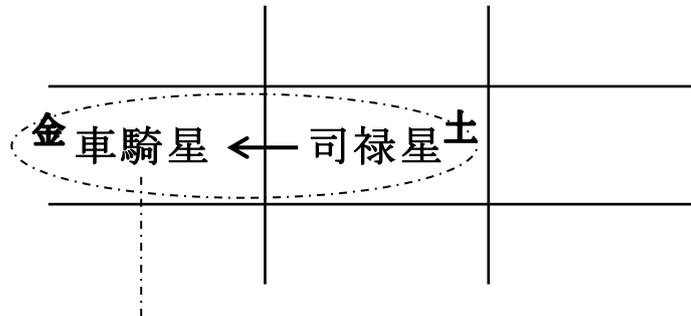
『相生』の関係がよい場合もあります。

『相生』の関係が悪い場合もあります。

そこで悪い部分を考えます。 ➡

👉 『相生』の「注意点」を考えます。

宿命（2）A子人体図・相生



第一命星は配偶者の場所（夫座）

A子さんが結婚すると、男性は夫座に座ることになります。

A子さんが配偶者を（支える・助ける）と書いてありますが、彼女に助けられたいと思っているのでしょうか？

配偶者は（助けてもらいたくない・煩わしい）という気持ちかもしれないのです。 参考：気持ち〔それに対して感じた心の状態〕

相手のことを一生懸命やって、過保護にしてしまっ、  
 資質の<sup>ししつ</sup>良い面を<sup>つぶ</sup>潰してしまうということもあります。  
 相手を過保護にした結果、相手の才能を伸びなくして  
 しまう。そういう可能性もあるわけです。

彼女が（土→金）（土→金）と、一生懸命に夫を助けて……  
 朝から晩まで面倒をみたら、うるさいなあ、うっとうしいよ、  
 そのように思うかもしれないですね。

“面倒をみる”聞こえはいいのですが、面倒を見過ぎると、相手を過保護にするとか、相手の自由を奪<sup>うば</sup>ってしまう可能性もあります。

(土→金) (土→金) と夫を生じる人体図の女性は、面倒見のよい奥さんです。

しかし、悪く出ると、夫を自分の管理下に置こうとする傾向<sup>けいこう</sup>があります。

相手を自分の管理下に置いてしまう。

『相生』にはこのような意味が横たわっています。

2人のあいだに『相生』<sup>そうしょう</sup>の関係があるというだけで、「結婚はうまくいきます」とは決まっていません。

『相生』の部分だけを観て、「よいとか」「悪いとか」を論じることはできないのです。

具体的な観方はこれからも出てきます。

宿命全体を総合的に観ることで、判断できるようになります。

☞ 宿命（3）母親の人体図

A子さんは関係ありません



## 第二命星・子供の場所

母親の主星・龍高星りゅうこうせいが子供の場所の石門星せきもんせいを生じています。

五行水性の龍高星が五行木性の石門星を（水→木）と相生の関係です。母親は〔子供を助けて・面倒をみて当たり前〕と知っている。と考えることができます。一生懸命に子供の世話を焼くわけですが、やり過ぎてしまうと過保護になります。

過保護の環境で育ててしまうと、子供自身が自立心を失ってしまうとか、子供がもつ才能の芽めを摘つんでしまう可能性があります。

特に身強の子供を過保護で育てると役に立たなくなります。

身強の子供と身弱の子供の育て方は異なります。

それは個人・個人の人体図によります。

42回目【身強・身弱・身中】を参考にしてください。

③ 『比和』

☞ここでもA子さんの人体図をつかいます。参照04ページ

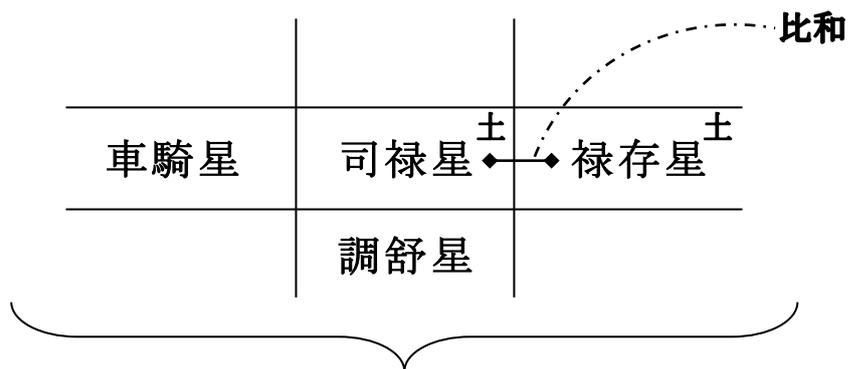
『比和』は友達のような関係だといいました。

『<sup>ひわ</sup>比和』友達のような関係

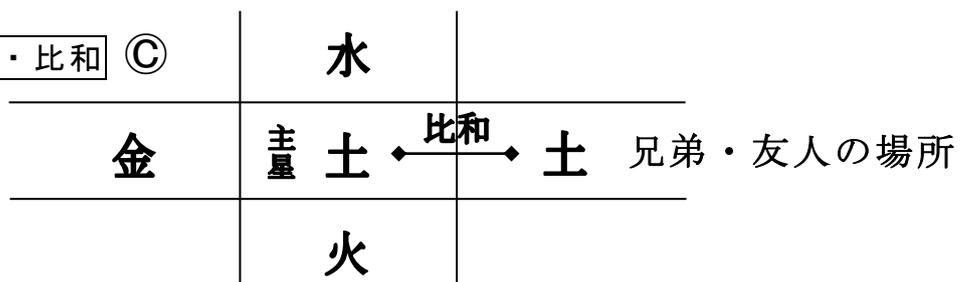
宿命(1) A子・比和 ①

	龍高星 <sup>水</sup>	天堂星
<sup>金</sup> 車騎星	司禄星 <sup>土</sup>	禄存星 <sup>土</sup>
天馳星	調舒星 <sup>火</sup>	天南星

宿命(1) A子・比和 ②



宿命(3) A子・比和 ③



③は五行で書きました。

宿命(3) A子・比和 ㊶ ㊷ ㊸ を見てお解りになると思いますが、

『比和』というのとは、おなじもの同士です。

A子さん自身の人体図のなかで、司禄星(土性)です。

そして兄弟・友人も禄存星(土性)ですから、自分と

兄弟・友人が『比和』になっています。

A子さんのような人体図の場合は、兄弟・友人との仲間意識の強い人といえます。

『比和』友達のような関係と考えてよいのです。

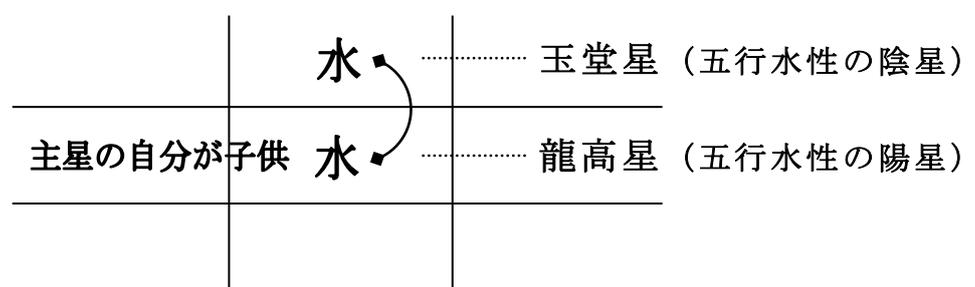
☞ 人体図《1》比和 A子ではありません。実線で区切りました。

人体図《1》比和 主星(子供)と第四命星(親)が

『比和』になっていますから、子供の自分と親は友達のような関係とおもう人です。

親に対して同等意識をもつ人です。

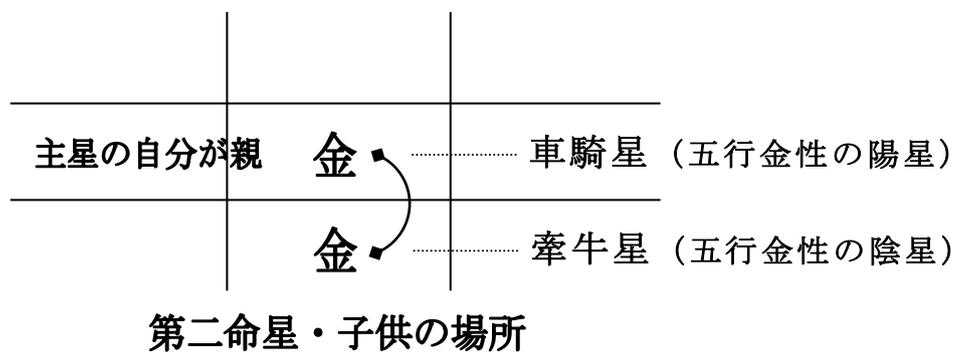
#### 第四命星・親の場所



『比和』には『相生』『相剋』のように、決まった<sup>しるし</sup>印はありません。好きな記号をつかってよいのです。

等しい = でもよいのです。 著者は  $\longleftrightarrow$  **比和** です。

**人体図《2》比和** 主星（親）と第二命星（子供）が比和になっていますから、親の自分と子供が友達みたいな関係になるわけです。



あくまでも自分の人体図のなかだけでいえる話です。

この人体図は「主星の自分が親」ですから、親の人体図です。

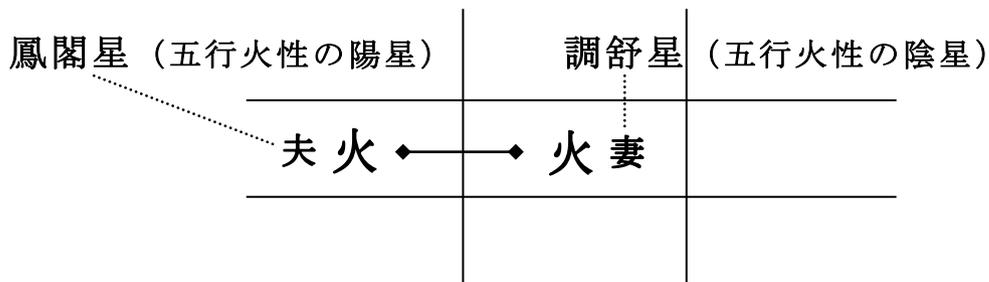
『比和』 友達のような関係

「子供と友達のような関係」に違和感をもたない親といえます。

このように考えておくとよいでしょう。

〔たとえば〕 ご夫婦で『比和』になっていたら、そのご夫婦は友達みたいな関係なら望ましいといえますし、そのようにおもう人です。あるいは、それが当たり前だという感覚をもつ人という意味になります。

### 人体図《3》比和



夫は鳳閣星・妻は調舒星です。（五行火性）の陽と陰です。  
夫婦は『比和』で友達のように仲がよいのか——？  
仲がよいとは決まっています。

友達みたいに仲良く暮らせば、仲良い夫婦で過ごせる  
と思うかもしれませんが、そうなるとは決まっていな  
いのです。

友達のような関係というのは、相手と対等の関係だとい  
えますが、競争相手でもあるわけです。

対等ですからライバルといえます。

友達みたいに接するという事は、対等の関係を築こうとする人物といえます。

妻の主星は調<sup>ちょうじよせい</sup>舒星で火性、第一命星に座<sup>ざ</sup>す夫も鳳閣星<sup>ほうかくせい</sup>の火性です。

『比和』で対等という意味になります。

『比和』の関係は、自分と相手が対等であるという意識<sup>いしき</sup>をもつようになります。

自分と相手が対等であるという意識をもつようになる。

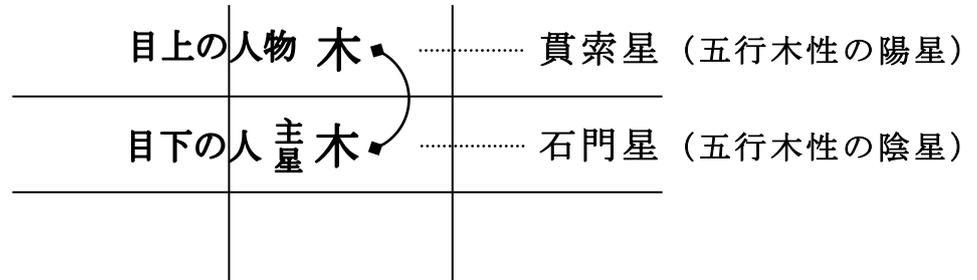
自分の人体図のどこかに『比和』をもつ人は、比和になっている箇所<sup>かしよ</sup>の相手とは、対等だと考える人です。

〔たとえば〕親と比和になっている人体図の場合は、親と友達のような関係ともいえますが、親に対等意識をもつ人です。

親と対等に接しようとする人といえます。

## 人体図《4》比和

## 第四命星は親の場所（目上の場所）



親に対して、あるいは目上に対しても、対等の関係をつくらうとしたときに、目上の人物から目下の相手を見たときにどのように感じるでしょう。

目下の人が目上の人物と対等に付き合おうとするので、目上の人物からは、〇〇は生意気だ、無礼だ<sup>ぶれい</sup>と受け取られてしまうこともあるわけです。

目上からは、目下のくせに<sup>せんえつ</sup>僭越だ、親からも子供のくせに生意気だ。そのように思われるかも知れません。

つまり「友達みたいに仲がよい比和」もありますし……

「目上から、目下のくせに生意気だ」と思われる『比和』もあるわけです。

それゆえ、よく出る場合もありますが、悪く出る場合もあるのです。

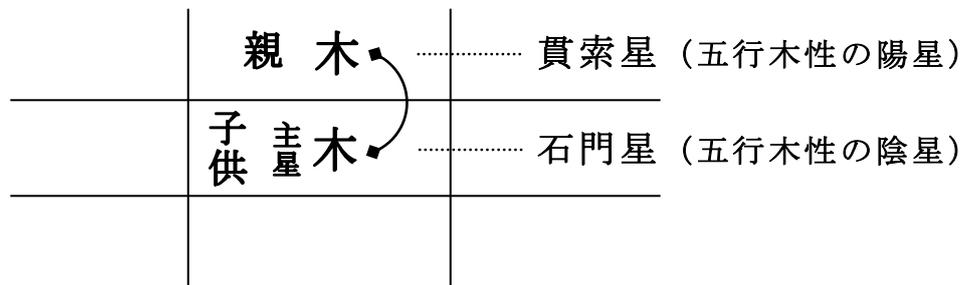
参考：僭越〔自分の身分や資格をこえて、出過ぎたことをするさま〕

自分の人体図に『比和』をもつ人は、比和になっている  
 箇所かしよの人物と『対等』と考える人といえます。

人体図《5》比和

目上の人物 目下の人

第四命星は親の場所（目上の場所）



人体図《5》比和 第四命星は親の場所で「木性＝親」として、主星の「木性＝子供」とすれば、親子関係を語ることができます。

親御さんのなかには、子供が友達のように接してくれて“うれしい”とおもう人もいるでしょう。

あるいは“子供と意志の疎通そつうができない”という親御さんもいるでしょう。さまざまです。

参考：疎通 [意志の通ずること。支障なくとおること。]

〔たとえば〕山田さんという母親がいて、子供が母親のことをどのように思っているのかを知るためには、実際に母親と子供の人体図を観ないとわからないのです。

つまり、子供の人体図をみると『比和』でも、母親の人体図をみると、自分と子供の場所が『相生』あるいは『相剋』になっているかもしれません。

それゆえ、母親と子供の生年月日から、2人の人体図をだして、それを観て判断することになります。

父親もということであれば、父親の宿命もだします。

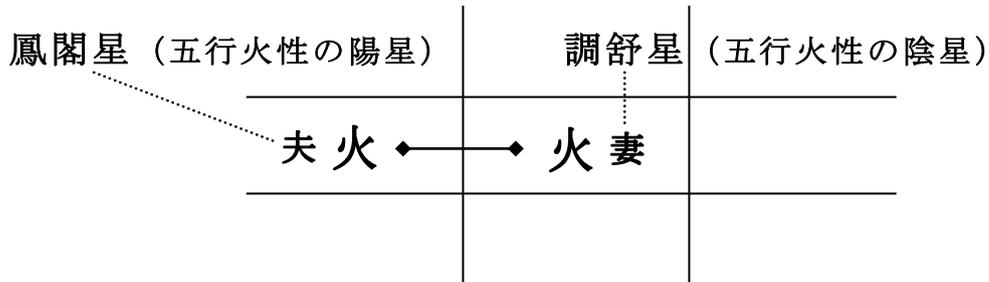
☞ 子供と親の関係でいえることでは…… [たとえば] 子供の人体図をみたときに、子供の主星と第四命星の親の場所が『比和』になっている場合は、その子供は親に対等意識をもつといえます。

子供は親と対等に接しようとする質をもっています。ということです。それがよい悪いは論じていません。

[たとえば] 親と子供の人体図をみたときに、親の人体図には子供と『比和』と書かれていないのに、子供の人体図には親と『比和』と書かれていれば、親の立場として、その子供を扱いにくいかもしれません。人体図には十大主星5星と、十二大従星3星が載ります。当然ほかの星も影響しますから読み方はさまざまですが、基本的にはそう読みます。

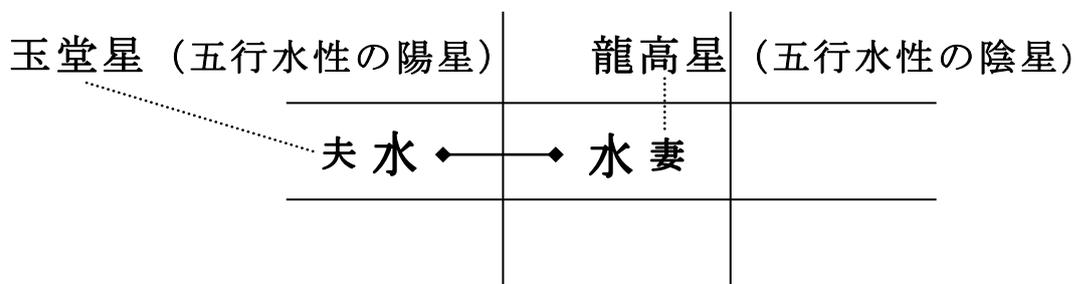
42 ページ **人体図《3》比和** ここでは、友達のような夫婦関係ということで（五行火性）を述べました。

**人体図《3》比和**



☞ <sup>ごぎょう</sup> 五行は火性に限らず ——— <sup>すいせい</sup> 水性でもよいのです。

**人体図《6》比和**



主星の妻は水性・夫も水性です。<sup>ごぎょうすいせい</sup> 五行水性です。

このように、妻と夫が『比和』になっている場合で、夫婦の結婚生活がうまく行くためには、2人のあいだに『なにか共通の目的意識』をもつとよいのです。

2人のあいだに共通点、または共通の目的があるとよい。その共通意識があるとうまく行くようになります。

妻は水性・夫も水性と書いてあれば、『比和』ですから共通の趣味がある。目指すものがおなじ。2人の生い立ちが似ているでも結構です。(共通するなにかです)

妻は小さい頃に両親が離婚して、とても<sup>つら</sup>辛いおもいをしました。夫のほうも両親が離婚したとか、あるいは両親が早くに亡くなって——それで苦勞しました。

このように、自分と相手のあいだに、なにか共通点があるほうがうまくゆくのです。

妻が目指す世界は「精神的なゆたかさ・人間性」です。

夫が目指すものは「お金」です。

そうなると、目指す世界が違いますよ。

妻はお金が好きです。夫の私もビジネスでお金を儲けようと思っています。2人で商売して、お金儲けを頑張ろうとかであれば、共通の目的になります。

あるいは、共通の敵でもよいです。「困った問題が起こって

夫が兄弟と揉めて<sup>も</sup>います」妻は夫の兄弟が嫌いです。

夫も自分の兄弟を嫌っています。それでもいいわけです。

『比和』の夫婦は、このようにお互いの共通点・共通の目的意識があると、夫婦仲はうまくいきます。

ご夫婦が『比和』になっている場合、お互いの共通点が無いと“悪く”出ます。

『比和』は相手と対等関係ですから、共通点がないと〔相手と張り合う〕ライバルになってしまうこともあります。『比和』の関係は競争相手でもあるからです。

### 『比和』終わります。

このように『相剋』『相生』『比和』を観てきました。

『相生だからいい関係』とか『相剋だからうまくいかない』とは言い切れません。事象は『相剋・相生・比和』だけでは決まらないのです。人体図（陽占宿命）すべての星、そして、必要であれば、陰占宿命を観て総合的に判断します。

ここまでは『相剋』『相生』『比和』の基本的な概論です。<sup>がいろん</sup>

参考・概論〔全体にわたって大要を述べたもの〕

【初年】 49回目【人体図の観方】 『生剋比』 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 50回目【人体図の観方②】 です。